

# 令和2年度 児童生徒の不登校の状況について

## (1) 不登校の定義

令和2年4月1日から令和3年3月31日までに30日以上欠席した長期欠席児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあることをいう（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）。

## (2) 調査結果の概要

項目	学校数	不登校在籍学校数	不登校		
			児童・生徒数	出現率(%)	学校復帰率(%)
小学校	46 (46)	43 (43)	231 (217)	0.92 (0.88)	27 (25)
中学校	24 (24)	24 (24)	399 (351)	4.96 (4.38)	12 (14)

不登校児童・生徒数は、小学校231人(0.92%)、中学校399人(4.96%)であり、前年度と比較すると、出現率は小学校で0.04ポイント、中学校で0.58ポイントの増加となっている。また、不登校児童・生徒の学校復帰率は、小学校で27%、中学校は12%であった。

※( )内は出現率)、学校復帰率とは、「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」の割合である。

## (3) これまでの取組

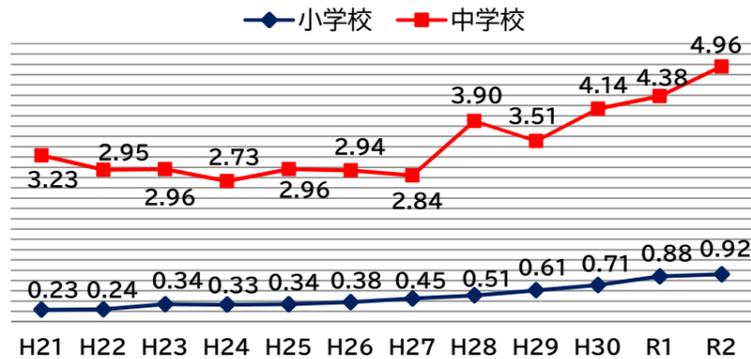
- 平成31年3月に「江東区不登校総合対策(第2次)」を策定。学校における不登校への支援を「未然防止」「早期支援」「学校復帰・自立支援」の三つの段階で示す。
- 児童・生徒の相談等に対応するため、スクールカウンセラーを全校に配置。
- 不登校担当者連絡会(年5回)・不登校未然防止連絡会(年2回)の実施。小・中学校間で連携した対応策等を協議。
- 区独自不登校調査の毎月実施(分析結果を未然防止、改善に生かす)。
- スクールソーシャルワーカー(SSW)を積極的に活用した関係機関との連携及び長期欠席児童生徒対応の充実。
- 教育センターにおける教育相談(心理相談)において、不登校に対する支援の実施。
- ブリッジスクールにおける学習支援をさらに充実させるため、令和2年度に南砂教室(教育センター教室・東大島教室に次ぐ第3の教室)を開設。
- 令和3年度より、ブリッジスクールに学習支援アプリを導入するとともに、区費スクールカウンセラー(3名)を配置。

【令和2年度ブリッジスクール在籍児童・生徒数】 ( )内は令和元年度の数値

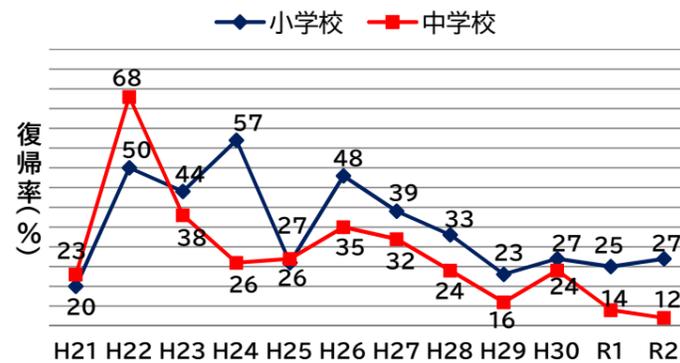
教室	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
教育センター	0 (0)	2 (1)	6 (2)	6 (6)	9 (14)	24 (22)	22 (19)	69 (64)
東大島	2 (1)	2 (2)	1 (3)	5 (3)	6 (10)	14 (22)	14 (17)	44 (58)
南砂					5	11	9	25
合計	2 (1)	4 (3)	7 (5)	11 (9)	20 (24)	49 (44)	45 (36)	138 (122)

\*中3生(45名)進路先  
都立高校(19)、私立高校(17)、サポート校(5)、専門学校(1)、就職(2)、進学準備(1)

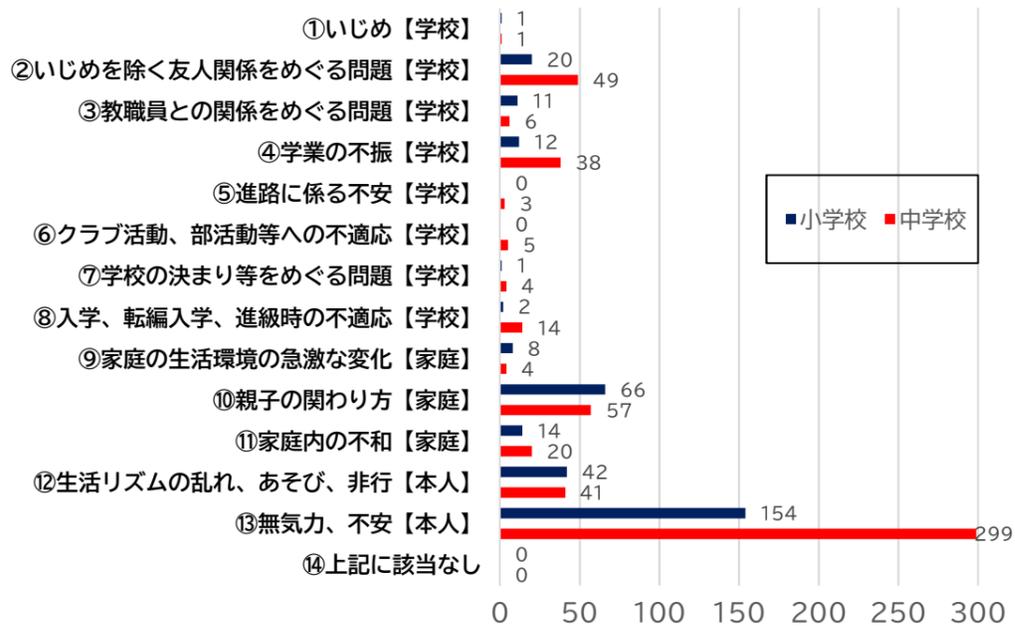
不登校児童・生徒の出現率(%)



学校復帰率(%)



不登校の要因(「主たるもの」及び「主たるもの以外にも当てはまるもの」の計)



不登校の要因は、「主たるもの」及び「主たるもの以外にも当てはまるもの」の計について、小学校・中学校ともに、本人に係る「無気力・不安」が最も多く、次いで家庭に係る状況の「親子の関わり方」が多い。その次に多いのは、小学校では、本人に係る「生活リズムの乱れ、あそび、非行」、中学校では、学校に係る「いじめを除く友人関係をめぐる問題」である。

※不登校の要因については、「主たるもの」を一人につき必ず1つ選択する。また、「主たるもの以外にも当てはまるもの」がある場合には、一人につき2つまで選択ができる。

## (4) 今後の対応

- 学校・ブリッジスクールの魅力化、児童・生徒が安心して過ごすことができる環境づくりの一層の推進。
- ブリッジスクール通室児童・生徒の課題に応じた学習をさらに充実させるために、個に応じたオンライン上での学習を在籍校と連携し、実施。
- ブリッジスクール通室児童・生徒の自己肯定感、自己有用感が高められるような体験的な学びの充実。
- フリースクール等に通う児童・生徒の実態を把握し、公民連携の効果的活用について検討を進める。

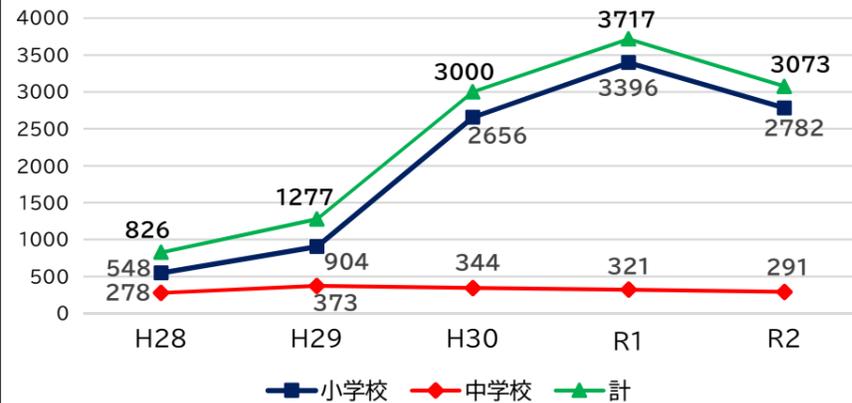
※小学校は義務教育学校前期課程、中学校は義務教育学校後期課程を含む。

**(1) いじめの定義** 児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人間関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外は問わない。

## (2) 調査結果の概要

校種	項目	H28	H29	H30	R1	R2
小学校	認知件数	548	904	2656	3396	2782
	解消しているものの割合	92.0%	89.8%	85.6%	76.2%	76.6%
中学校	認知件数	278	373	344	321	291
	解消しているものの割合	98.2%	95.7%	90.9%	76.3%	72.9%
計	認知件数	826	1277	3000	3717	3073
	解消しているものの割合	94.1%	91.5%	86.2%	76.2%	76.2%

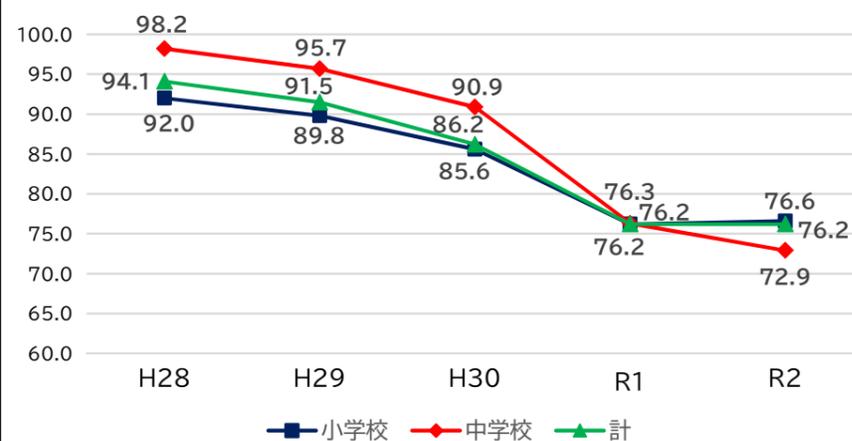
いじめ認知件数の推移



いじめの認知件数は、小学校 2782 件、中学校 291 件、計 3073 件であり、前年度より小学校で 614 件の減少、中学校で 30 件の減少である。  
平成 27 年度から認知件数は増加傾向であったが、令和 2 年度は初めて前年度より件数が減少した。

※いじめの認知件数は、令和 2 年度間において、いじめの定義に該当するいじめを受けた児童・生徒ごとに 1 件として数える。

解消しているもの(日常的に観察継続中)の割合



解消しているものの割合は、小学校 76.6%、中学校 72.9%、計 74.8% であり、前年度より小学校で 0.4% の増加、中学校で 3.4% の減少である。

※解消しているものの割合については、令和 3 年 3 月 31 日現在の割合である。「解消している」状態とは、少なくとも次の 2 つの要件が満たされている状態である。  
①いじめに係る行為の解消:被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間(少なくとも 3 か月を目安とする)継続していること。  
②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと:いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。

## (3) これまでの取組

- ① 「江東区いじめ防止基本方針」「健全育成総合対策～いじめの防止に向けて～」の策定(平成 30 年 3 月に改定)。
- ② 「江東区いじめ問題対策連絡協議会」を年 2 回開催。区又は学校におけるいじめの未然防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策の推進に関する事項について協議。
- ③ 全校で「学校いじめ防止基本方針」を策定し、それに基づく対応、ホームページでの公開を実施。
- ④ リーフレット「いじめ対応マニュアル」を全校に配布。見逃しがちな軽微ないじめの具体例やいじめ対応の仕方等に加え、いじめの認知件数が多いことをもって、その学校や学級に課題があるという捉え方をしないことについて、周知・徹底。
- ⑤ 全校で「学校いじめ防止に関する年間計画」を作成。いじめに関する教員研修を年間 3 回以上実施するとともに、いじめに関する授業を年間 3 回以上実施(\*令和 2 年度については年間 2 回以上)。
- ⑥ スクールカウンセラーによる、小学校 5 年生、中学校 1 年生を対象とした全員面接の実施。
- ⑦ 全児童・生徒対象の年間 3 回以上のいじめアンケートを実施。
- ⑧ 全校において、「児童・生徒主体のいじめ防止への取組」を実施。

## (4) 今後の対応

- ① 全ての教職員が「学校いじめ防止基本方針」を正しく理解し、学校いじめ対策委員会における多角的な検証により、「**PDCA サイクルによる評価・改善**」を通して、実効のないいじめ防止対策を推進できるよう、「**いじめ防止において必ず取り組む 18 の項目**」やふれあい月間における「**教員シート**」の活用を推進。
- ② こどもたちの多様性や互いのよさを認め合う態度の育成を目指し、**日常の授業から、児童・生徒同士が話し合い、合意形成や意思決定を行う場面を設定**することを推進。
- ③ 様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育(**SOS の出し方教育**)の推進及び教職員の「**児童・生徒の SOS を受け止め、支援する力**」を高めるための取組を強化。
- ④ 一人 1 台の学習者用端末や統合型学習支援サービス等を利用して、他者を傷付けたり、いじめとなるような発言を行ったりすることのないよう、人権を尊重した教育活動に努めるため、「SNS 東京ノート(令和 3 年 3 月)」等を活用し、**学習者用端末等のより適切な利用について、主体的に考えさせる指導を推進**。

※小学校は義務教育学校前期課程、中学校は義務教育学校後期課程を含む。